

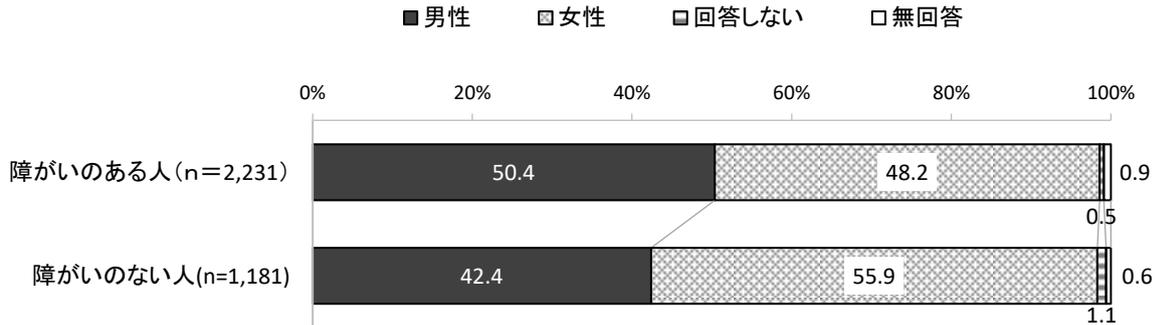
iii 障がいのある人と障がいのない人の比較

1. 属性・暮らし・日常生活について

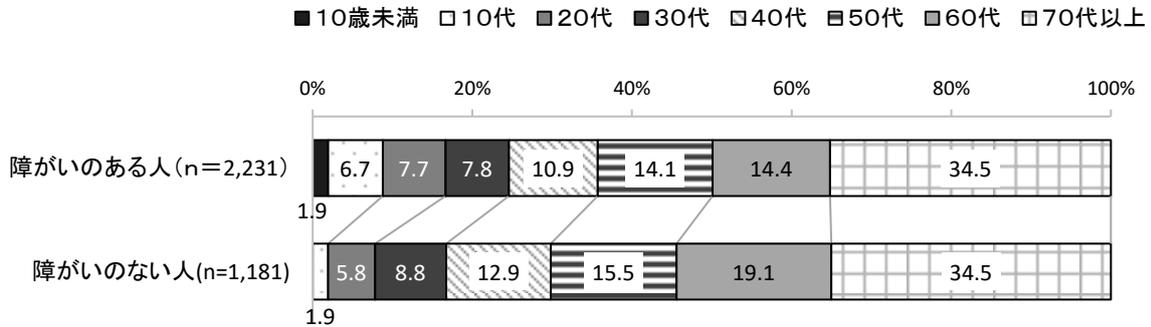
(1) 本人の属性

問 はじめにご本人のことについて、お伺いします。

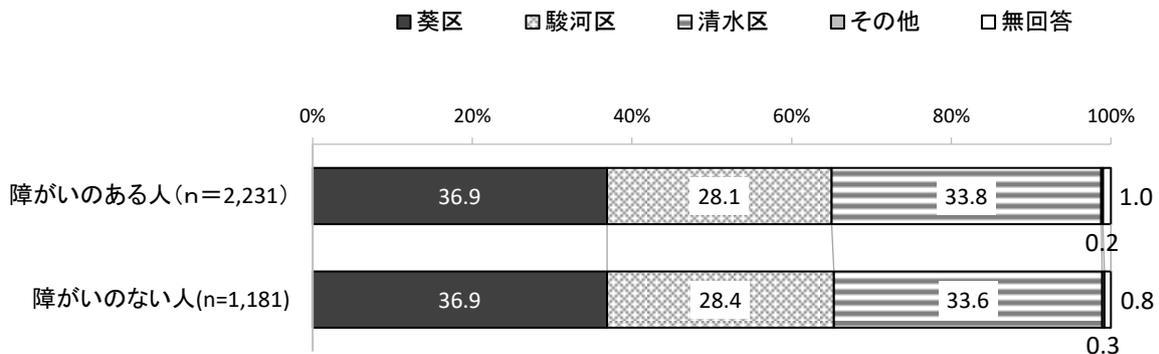
【性別】



【年齢】



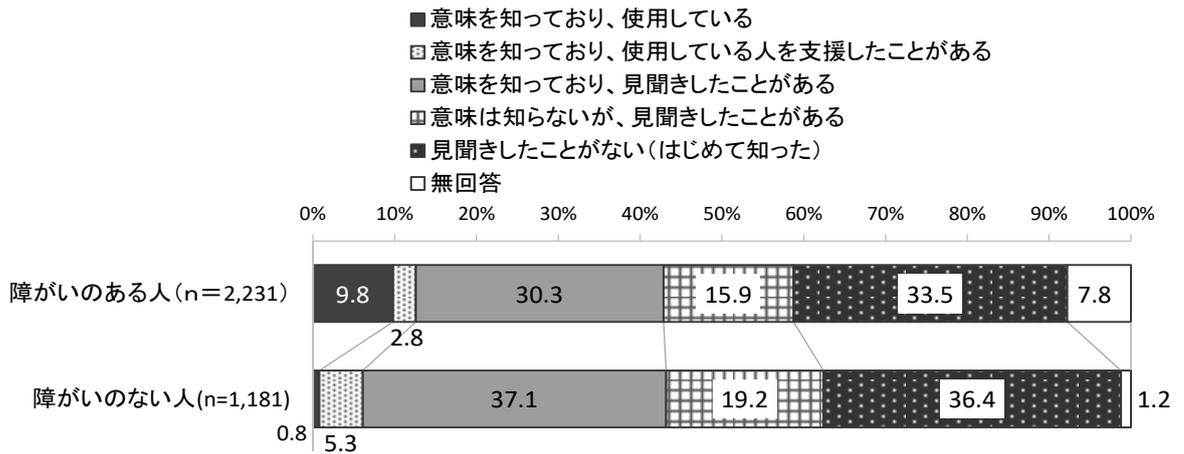
【居住地】



(2) ヘルプマークの認知

問 あなたは、ヘルプマークを知っていますか。(〇は1つ)

障がいのある人では「見聞きしたことがない」が最も多く、次いで「意味を知っており、使用している人を支援したことがある」で、ともに3割台前半となっている。障がいのない人は「意味を知っており、使用している人を支援したことがある」が最も多く、次いで「見聞きしたことがない」で、ともに3割台後半となっている。

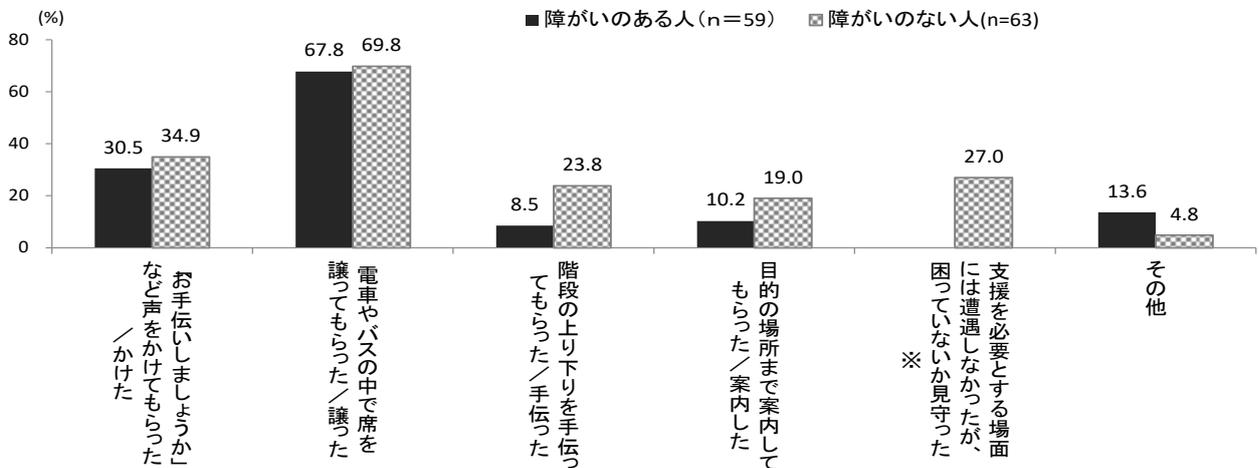


(3) ヘルプマーク利用者への支援

(障がいのある人)「ヘルプマークの意味を知っており、使用している」と回答した人
 (障がいのない人)「意味を知っており、使用している人を支援したことがある」と回答した人

(障がいのある人)
 問 どんな支援を受けることができましたか。(〇はいくつでも)
 (障がいのない人)
 問 どんな支援をしましたか。(〇はいくつでも)

どちらもサンプル数が少ないため参考程度だが、障がいのある人、障がいのない人ともに「電車やバスの中で席を譲る」が最も多かった。

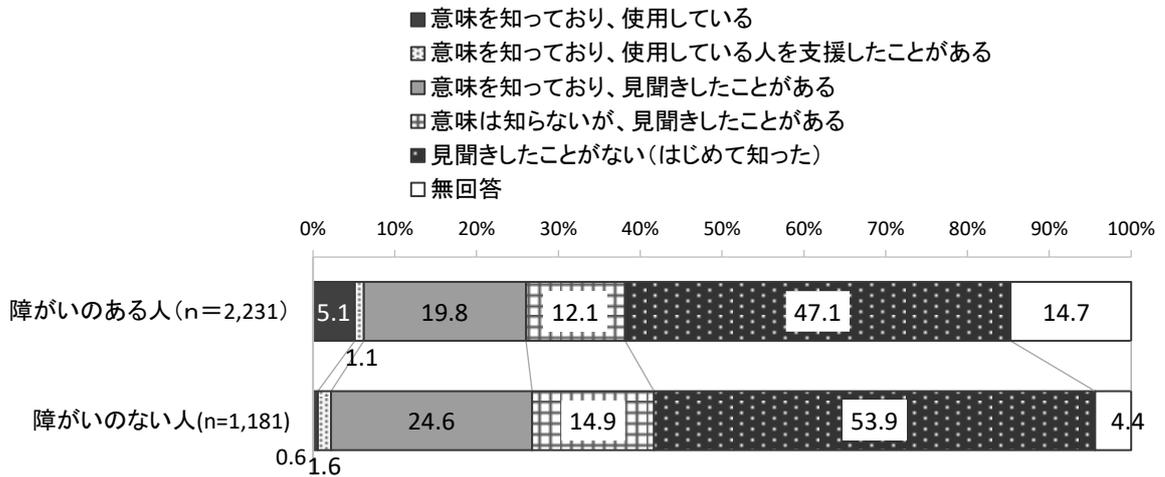


※「支援を必要とする場面には遭遇しなかったが、困っていないか見守った」は障がいのない人のみ

(4) ヘルプカードの認知

問 あなたは、ヘルプカードを知っていますか。(〇は1つ)

障がいのある人、障がいのない人ともに「見聞きしたことがない」が最も多く、約5割となっている。次いで「意味を知っており、見聞きしたことがある」が約2割となっている。



(5) ヘルプカード利用者への支援

(障がいのある人)「ヘルプカードの意味を知っており、使用している」と回答した人

(障がいのない人)「意味を知っており、使用している人を支援したことがある」と回答した人

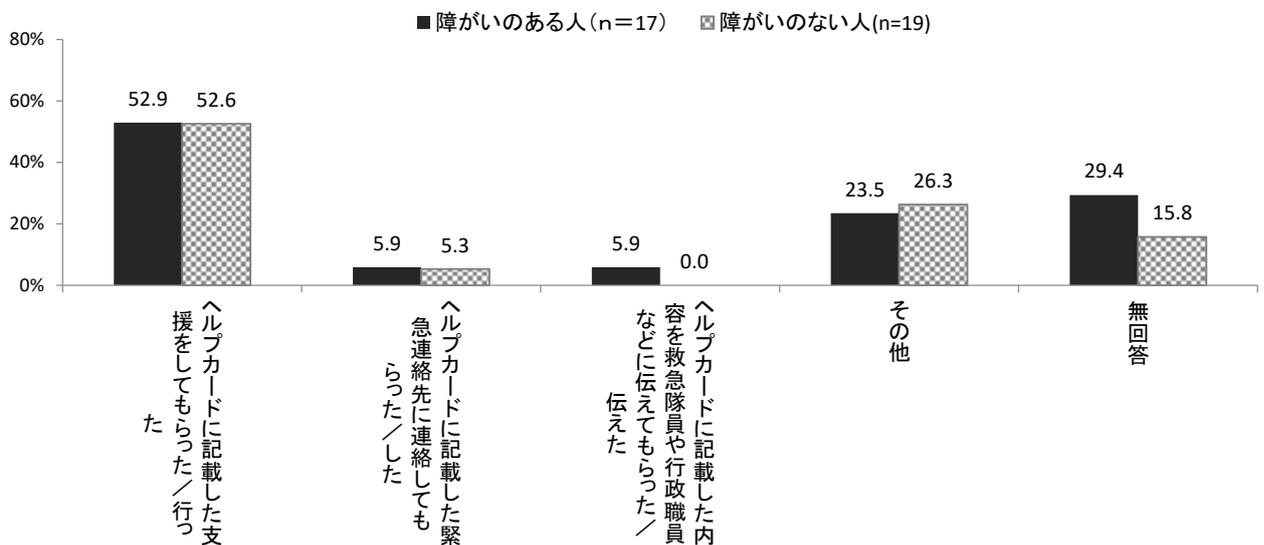
(障がいのある人)

問 どんな支援を受けることができましたか。(〇はいくつでも)

(障がいのない人)

問 どんな支援をしましたか。(〇はいくつでも)

どちらもサンプル数が少ないため参考程度だが、障がいのある人、障がいのない人ともに「ヘルプカードに記載した支援をした」が最も多かった。

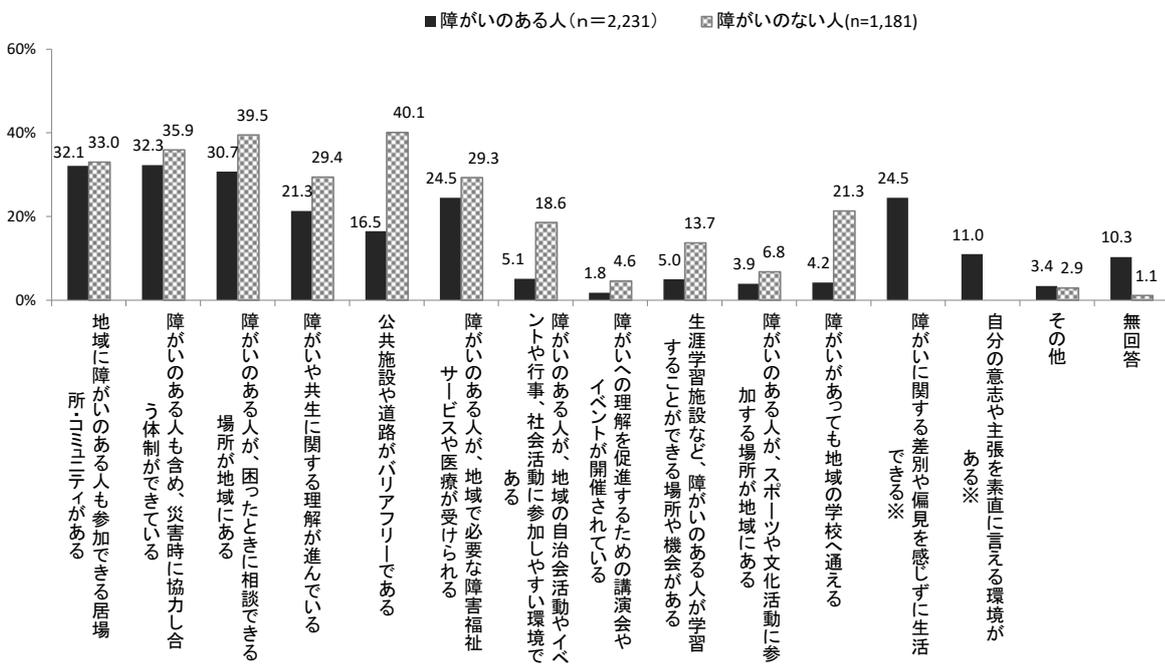


2. 地域での生活について

(1) 「地域における共生」について

問 静岡市は、「地域における共生(障がいのある人もない人も、誰もが互いに大切に、支え合い、地域で安心して自分らしく暮らすことができること)」ができる都市を目指しています。あなたにとって、「地域における共生」を進める上で、特に重要だと思うことは何ですか。(〇は3つまで)

障がいのある人では「災害時に協力し合う体制ができている」がトップで、「地域に居場所・コミュニティがある」、「困ったときに相談できる場所が地域にある」が僅差で続く。障がいのない人では「公共施設や道路がバリアフリーである」がトップで、次いで「困ったときに相談できる場所が地域にある」となっている。

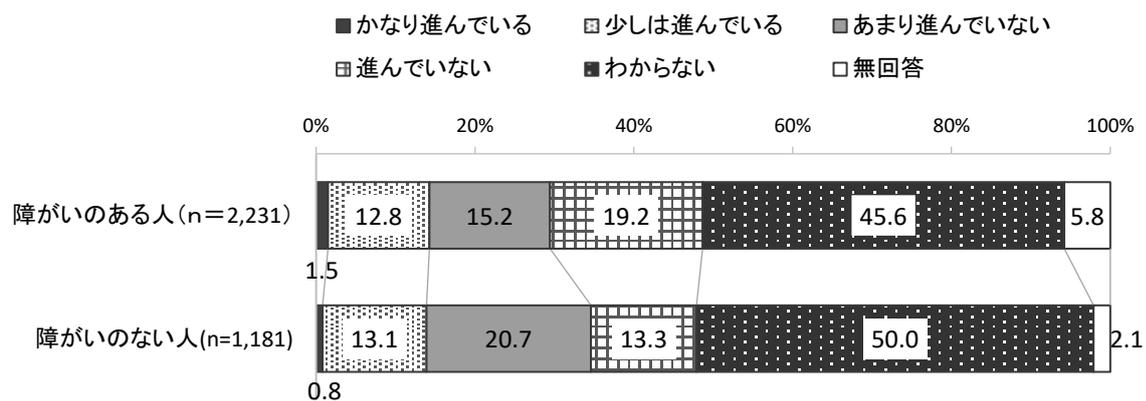


※「障がいに関する差別や偏見を感じずに生活できる」「自分の意志や主張を素直に言える環境がある」は障がいのある人のみ

(2) 「地域における共生」の進捗状況

問 静岡市は、「地域における共生(障がいのある人もない人も、お互いに大切にし、支え合い、地域で安心して自分らしく暮らすことができること)」ができる都市を目指しています。あなたの身近では、「地域における共生」がどの程度進んでいると思いますか。(〇は1つ)

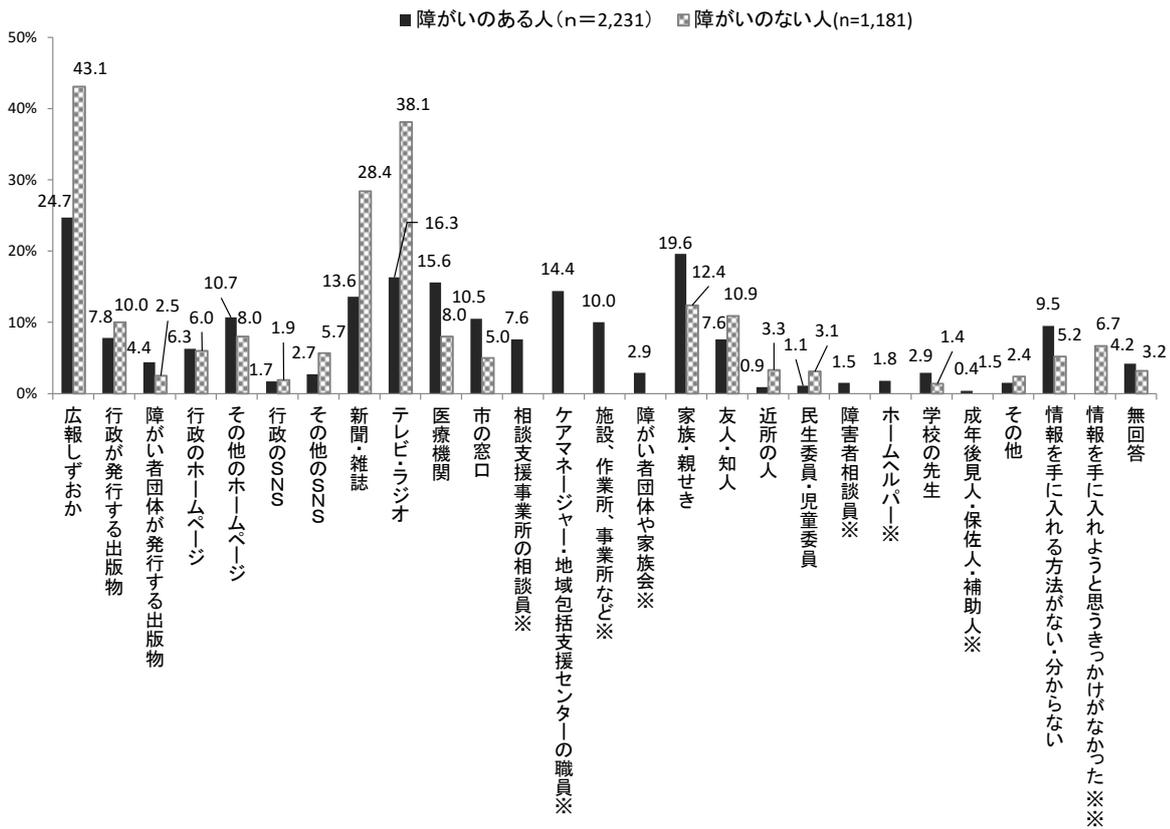
地域における共生について、障がいのある人では「進んでいない」が19.2%で、障がいのない人では「進んでいない」が13.3%と、障がいのない人よりも障がいのある人で「進んでいない」と感じる人の割合が高くなっている。



(3) 福祉サービスに関する情報経路

問 あなたは、日頃、福祉サービスに関する情報を主に何をきっかけにして知ることが多いですか。(〇は3つまで)

障がいのある人では「広報しずおか」が最も高く、次いで「家族・親せき」、「テレビ・ラジオ」、「医療機関」と続く。障がいのない人でも「広報しずおか」が最も高いが、2位以降は「テレビ・ラジオ」、「新聞・雑誌」となっている。



※…障がいのある人のみ
 ※※…障がいのない人のみ

3. 災害対策について

(1) 避難行動要支援者のために災害時の備えとして取り組むべきこと

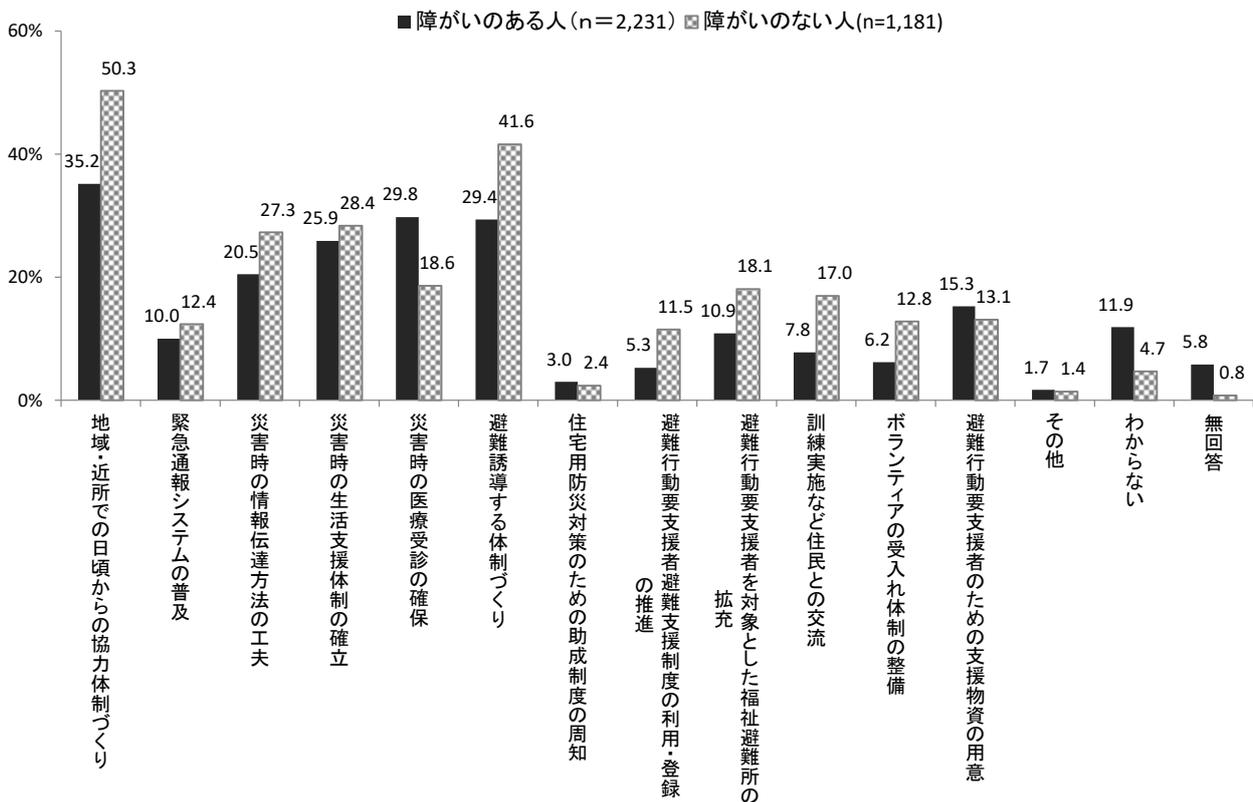
(障がいのある人)

問 あなたは、地震や台風などの災害時に備え、障がいのある人に対し、必要な取組はどれだと思いますか。
(○は3つまで)

(障がいのない人)

問 あなたは、地震や台風などの災害時に備え、障がいのある人に対し、どのようなことに取り組むべきだと思いますか。(○は3つまで)

避難行動要支援者のための災害時の備えについては、障害のある人は「地域・近所での日頃からの協力体制づくり」が35.2%でトップ、次いで「災害時の医療受診の確保」が29.8%となっている。障がいのない人は「地域・近所での日頃からの協力体制づくり」が50.3%でトップとなっており、次いで「避難誘導する体制づくり」が41.6%となっている。

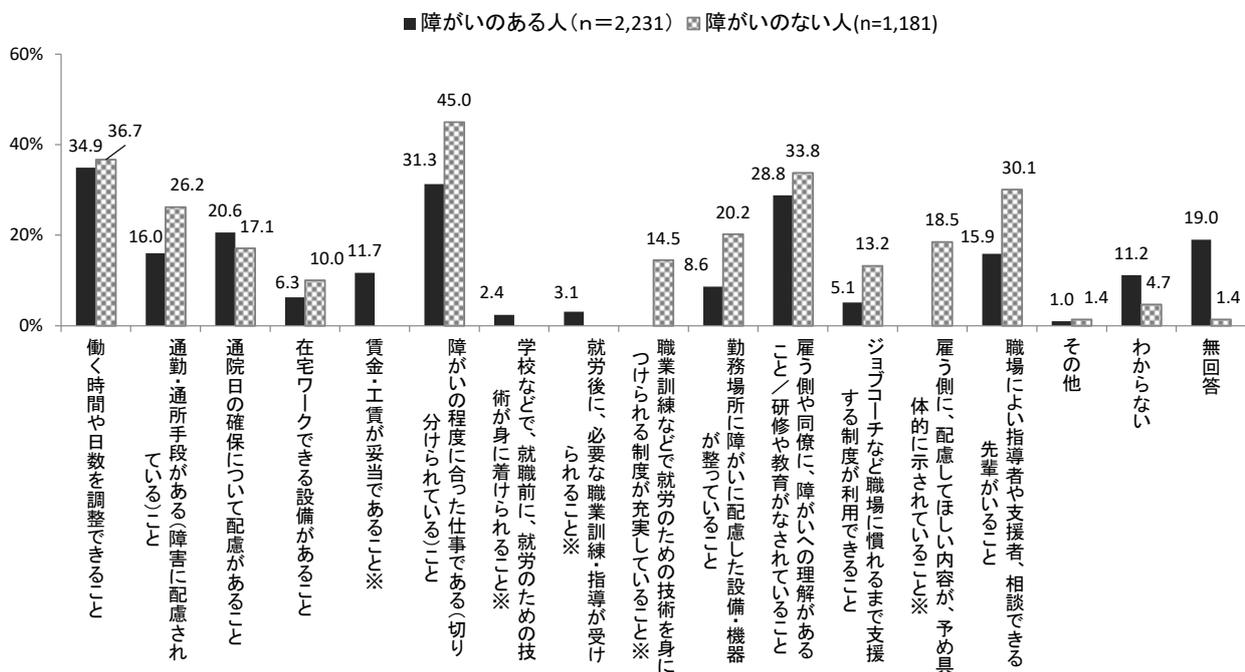


4. 障がいのある人の雇用・就労について

(1) 障がいのある人が働くために必要な環境整備

問 あなたは、障がいのある人と障がいのない人が一緒に働くときに、障がいのある人にとってはどういった環境(配慮)が必要であると思いますか。(〇は3つまで)

障害のある人が働くための環境整備に関する認識について、障がいのある人は「働く時間や日数を調整できること」が34.9%で最も高く、次いで「障がいの程度に合った仕事であること」が31.3%となっている。障がいのない人は「障がいの程度に合った仕事が切り分けられていること」が45.0%で最も高く、次いで「働く時間や日数を調整できること」が36.7%となっている。



※…障がいのある人のみ

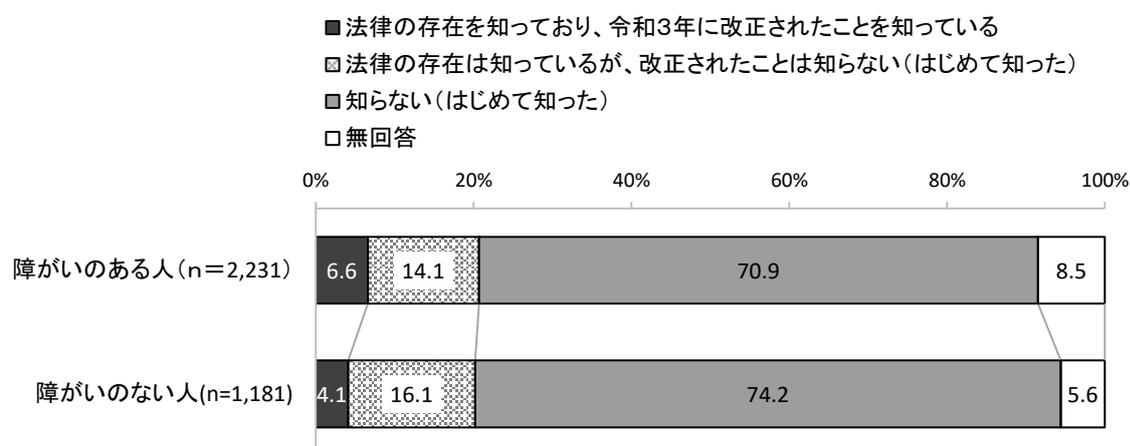
※※…障がいのない人のみ

5. 障がいのある人への理解について

(1) 「障害者差別解消法」の認知状況

問 あなたは、平成 28 年 4 月 1 日から施行された「障害者差別解消法」を知っていますか。(○は 1 つ)

「障害者差別解消法」の認知率は、障がいのある人、障がいのない人ともに「知らない」が最も高く、7割台となっており、障がいのある人に比べて障がいのない人で「知らない」が高くなっている。また、「法律の存在は知っているが、改正されたことは知らない(はじめて知った)」が、障がいのある人、障がいのない人ともに1割台となっている。



(2) 障がいのある人への差別・偏見について

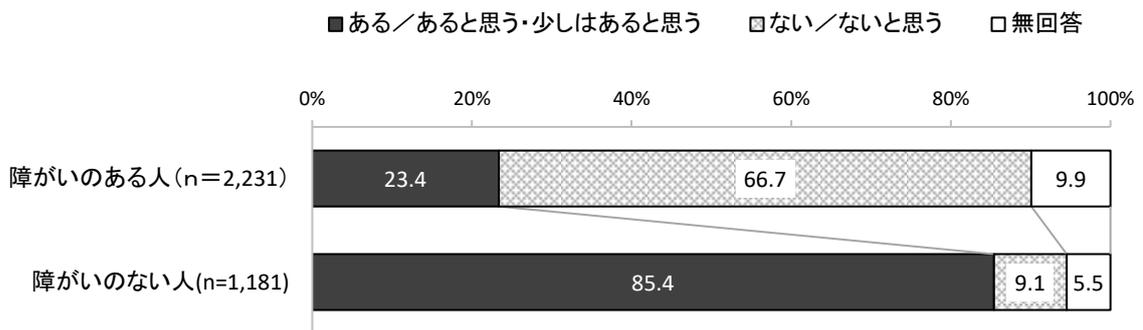
(障がいのある人)

問 あなたは、障がいを理由に差別を受けたり、いやな思いなどをしたことがありますか。(〇は1つ)

(障がいのない人)

問 あなたは、社会が障がいのある人に対し、障がいを理由とする差別や偏見があると思いますか。(〇は1つ)

障がいのある人への差別・偏見についての認識は、障がいのある人と障がいのない人で大きなギャップがあり、「ある」と答えた人の割合は、障がいのある人で23.4%、障がいのない人で85.4%（「あると思う」と「少しはあると思う」合計）となっており、障がいのある人が感じている以上に障がいのない人は差別・偏見があると感じている。



(前問で「ある」「あると思う・少しはあると思う」と答えた方にお伺いします。)

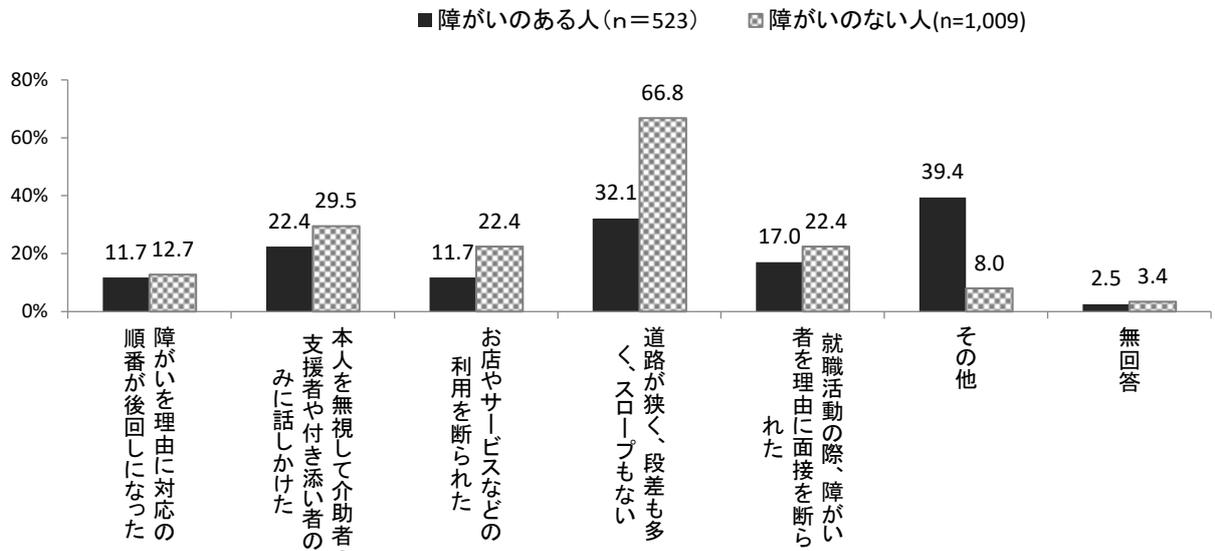
(障がいのある人)

付問① どのような差別を受けたり、いやな思いをされましたか。(〇はいくつでも)

(障がいのない人)

付問① 障がいのある人に対して、差別や偏見があると感じるのは、どのようなときですか。(〇はいくつでも)

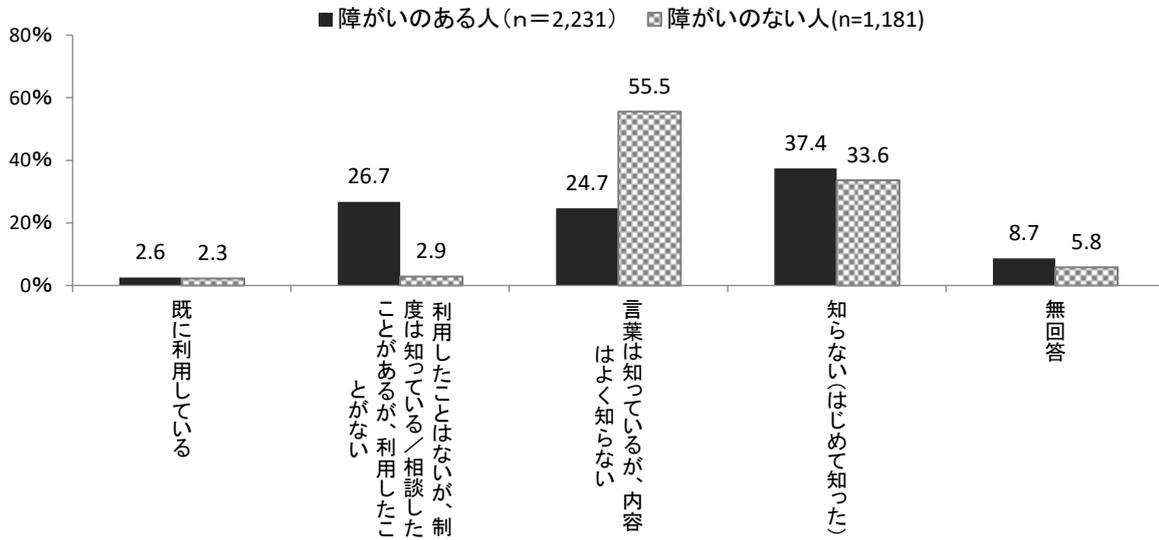
差別・偏見を感じる場面については、障がいのある人と障がいのない人の認識はほぼ一致しているが、「道路が狭く、段差も多く、スロープもない」について障がいのある人よりも障がいのない人で高い数値となっている。



(3) 「成年後見制度」の認知状況

問 あなたは、「成年後見制度」を知っていますか。(○は1つ)

障がいのある人では「知らない」が37.4%で最も高く、障がいのない人では「言葉は知っているが内容はよく知らない」が55.5%で最も高くなっている。



(4) 「日常生活自立支援事業」の認知状況

問 あなたは、「日常生活自立支援事業」を知っていますか。(○は1つ)

「日常生活自立支援事業」の認知率は障がいのある人と障がいのない人で大きな差はない。

